

皆さま、こんにちは。  
府中教会、アンドレアです。

本日は典礼暦最後の日曜日で、教会はこの日を「王であるキリストの主日」と定めています。本日の福音の箇所は「最後の審判」についての話ですが、世の終わりの裁きの様子を描くためではなく、神の目から見て何が決定的に大切なのかをはっきりと示すための話だと思います。今日、日本や世界でどんなことが起こっていますか。新型コロナウイルスを始め、地震や災害、同じ国の中での争いや戦い、日照りや洪水で食べ物がない等、できる限り注意を払って、その様子を知らなければなりません。遠い国や遠い地域でなくてもいいです。イエスが教えられたのは、空腹の人に食物を与え、渴いている人に飲ませ、旅人をもてなし、病人を見舞い、獄にいる人を慰めるなど、誰にでもできる簡単なことだと思います。私たちに要求されていることは、毎日出会う人に小さな奉仕をすることです。

面白いことに、助けを与えた人は、自分がキリストを助けていることを意識していませんでした。だから永遠の宝を積むことができました。この人たちは助けられないから助けたので、それは、心から湧き出る愛の行動、ご褒美をあてにしない行為でした。さらに、人を助けることはイエスを助けることであり、人を退けることはイエスを退けると言うことだと、最後に明らかになりました。これは、どういう意味でしょうか。親を喜ばせるのに一番よい方法は子供を助けることではないでしょうか。神はすべての人の父であるからこそ、神の心を喜ばせるには、神の子供たちを助けるのが最高の道だと思います。



Renato Guttuso, 十字架, 1940-1941